



2015年12月3日 第2216回例会
12月第1例会

RIテーマ Be a gift to the world
「世界へのプレゼントになろう」

本年度会長テーマ
「ロータリーを通して、互いに親しみ触れ合おう」

「疾病予防と治療月間」

◆ 会長時間 ◆

金本会長



今月12月は「疾病予防と治療月間」です。

世界には医療にまつわる次のような現状があります。

- (1) 毎年世界で10億人が Dengue 熱やハンセン氏病に苦しみ、先進国での症例が少ないためこれに対処する製薬会社の薬品開発が遅れている。
- (2) 世界には保健従事者の数が人口1万人あたり23人に満たない国が57もあり、毎年世界で240万人の医師、看護師、助産師等の保健従事者が不足している。
- (3) 医療費の負担によって、毎年1億人が貧困生活に追い込まれている。
- (4) 世界人口の6人に1人が医療費を払うことができない。

このような状況を改善するために、ロータリーでは以下のような取り組みを行っています。

- (1) 伝染病の予防方法を教える保健教育を支援し、予防接種を推進する。
- (2) 奨学金、助成金、啓蒙活動を通じて、保健従事者の継続的な教育と研修を支援し、地元保健従事者の能力を高める。
- (3) 医療が行き届いていない地域で、低費用または無料で質の高い医療支援を行う。
- (4) 地域社会の医療インフラを改善する。
 - ① 地域の医療機関に長期的な支援を提供す

る。

- ② より多くの人が医療機器や設備、最新医療を利用できるようにするため、大手医療企業とのパートナーシップや医療機関との協力を図る。
- ③ 広範囲の患者に対応できるよう、可動式の医療機器を取り入れる。

ロータリーでは12月をこれらの取り組みを強調する月間と定めています。

☒ 新会員に会員証、ロータリーバッジ、四つのテスト及びロータリアンの行動規範を贈呈



瀬崎敏正君



柳原邦典君

米山奨学委員会 米山功労者感謝状の伝達

第1回 笹野 正明 君

諏訪 昭浩 君



第2回 原 敬 君

香川 基吉 君



松岡幹太郎 君

村上 智亮 君



豊岡 博夫 君



第4回 荒谷 壽一 君

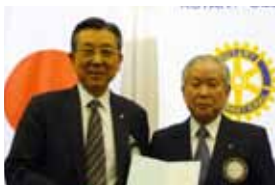


第5回 川西 祐二 君



第6回 古屋 憲次 君

金本 善行 君



上野 純一 君



● 会務報告 梶本幹事

※次週10日の例会は年次総会となっておりますので、多数のご出席をお願い致します。

※例会終了後、4階「アマリリス」において12月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

● 委員会報告

※ プログラム・出席委員会

出席報告 片山(常)副委員長

本 日 (12月3日・木曜日)

会員数 84名 出席者 71名

欠席者 13名 ご来客 0名

ご来賓 0名 ゲスト 1名

計 72名

前々回 (11月19日・木曜日)

出席率 100%



※ IM実行委員会 香川(基)委員長

2015-2016年度RI第2710地区グループ6・7合同
インターシティーミーティング開催のご案内

今年度のグループ6・7合同のインターシティーミーティングは当クラブがホストとなり開催いたします。

2015年8月に広島は被爆70年を迎え、あらためてロータリーの目的の一つである世界平和の実現に向けてロータリー活動の推進を図らなくてはならないと考えております。このような思いの中、本年度のテーマを“広島ロータリアンが発信する「奉仕を通じて平和を」ー被爆70年の節目によせてー”とし、2012-13年度RI会長をされた田中 作次 様と広島市長 松井一實 様に基調講演をお願いしております。

インターシティーミーティングは、ロータリー情報と親睦を目的とした年1回のグループの研修会です。万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日 時 2016年2月28日(日)

受 付 12:30~13:30

会 議 13:30~17:00

懇親会 17:20~18:30

場 所 ANAクラウンプラザホテル広島
3階「オーキッド」

● 同好会報告

紫雀会 鈴木世話人

紫雀会11月例会のご報告

紫雀会11月例会は、11月19日木曜日に庚午クラブで開催されました。

おとなりのそば吉で食事をとり、午後6時からスタートとなりました。

今回は岡野さんのたってのご希望で「時間制限なしでやろう」という提案を、みんなが合意する形で行なわれました。その作戦どおりに、他を寄せつけない麻雀で見事に優勝されましたのは岡野さんでした。

準優勝は、3連覇をおしくものがされた木本さん、3位は、園尾さんがベテランの味を出されての入賞となりました。11月例会も、和気あいあいと楽しんで終了しました。

次回例会は、12月17日木曜日、銀山町にありますシサールで午後6時より、飲み放題、食べ放題、大判振る舞いでの開催となります。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

● 会員記念日

祝 12月お誕生日おめでとうございます。

(10名)

隅田君 園尾君 片山(常)君 渋谷君
諏訪(昭浩)君 新原君 土井君 大本君
川西君 原君



■ 新会員紹介

せ ざき としまさ
○ 瀬崎 敏正 会員

推薦者 金本 善行 会員

推薦同意者 川西 祐二 会員

生年月日 昭和41年3月15日

勤務先 広島電鉄株式会社

役職名 取締役(不動産事業本部長・不動産営業部長)

学歴 中央大学 法学部 法律学科

この度、広島西ロータリークラブに入会させていただくことになりました瀬崎敏正でございます。入会に際しましては、金本善行様、川西祐二様の推薦と会員の皆様のご承認をいただきましたこと、

厚く御礼申し上げます。

私は昭和41年3月生まれの49歳、広島県江田市の出身でございます。ご承知の方も多いと思いますが、江田島は広島市の南に位置し、みかんと牡蠣の養殖が盛んな田舎町です。私はそんな田舎で育ちました。

私が勤務しております広島電鉄は、電車事業、バス事業、不動産事業を3つの柱として事業展開しており、その中の不動産事業本部を担当しています。不動産事業本部の主な事業としましては、佐伯区の石内に約70haの開発団地「グリーンフォートそらの」がこの秋無事完成致しました。現在は商業用地や業務用地の契約、引渡しの手続きを行っており、戸建て用地の販売をするべく準備をしているところでございます。また、中区の立町電停前の第2広電ビルを隣接ビルを所有する日本生命様と共同ビルに建替える「仮称：広島八丁堀共同プロジェクト」にも取り組んでおります。このプロジェクトでは、今月中にビル解体工事を終え、新築工事の起工式を行い、2年後の平成29年11月に新築ビルの完成をめざしております。当社は社名に広島が付いておりますように広島を中心に事業を行っておりますが、事業を通じて少しでも広島の皆様に貢献したいと考えております。

ロータリー活動につきましては、今まで全く縁のないことでしたが、広島西ロータリークラブでの活動を通じて様々な業種の方々とふれあい親睦を図ることにより、人としての幅をひろげ、自己の研鑽に励みたいと思っております。



不慣れで、広島西ロータリークラブの皆様方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。



やなぎはら くのにり
○柳原 邦典 会員

推薦者 原 敬 会員

推薦同意者 上田 欣一 会員

生年月日 昭和32年6月3日

勤務先 (株)広島精機

役職名 代表取締役

学歴 愛知県立芸術大学 デザイン科

この度、原敬様のご推薦、並びに上田欣一様のご推薦同意を頂き、入会させていただきます柳原邦典と申します。伝統ある広島西ロータリークラブの一員になれましたこと厚く御礼申し上げます。

私は昭和32年廿日市市に生まれ、先代の社長である父が、昭和37年に当時佐伯郡五日市町、現在の佐伯区五日市に会社を移転、五日市小学校、修道中学、高等学校、愛知県立芸大を卒業後、一年間、外の企業を経験し現在の(株)広島精機に入社しました。平成元年常務取締役、平成6年先代社長の急逝により代表取締役就任、現在に至っております。

弊社は終戦間もない昭和21年5月、私の祖父にあたる柳原孟が海軍工廠設計部出身で、戦時後半は物資不足のなか製造に従事していた経緯から、廿日市市にて金属加工会社を創業しました。当時は帝人製機様や日本製鋼所様の部品を製造し、完成部品をリュックサックに背負い、廿日市駅から広島駅や岩国駅へ持って納入していたそうで、歯車関係の製造は昭和28年ころからと聞いております。来年は創業70年ということになります。

現在は歯車を基本にした減速機、トランスミッション、ポンプ等を設計製作しております。地元機械メーカー様をはじめ日本各地の動力伝動を必要とされますお客様に、製造提供させて頂いております。

家族は妻と四人の娘がおります。上三人はすでに社会人で家を出ており、長女は弊社にて本年取締役就任しております。自宅は佐伯区五日市駅

前です。来春四女も大学生として家を出ますので、かつて七人が暮らした家に妻と二人きりになってしまいます。寂しさと同時に掃除や草取り等、維持管理が気になっている昨今です。

恥ずかしながら今までの私は、ほとんどと言ってよいくらい奉仕という感性、経験の無い人間であります。広島西ロータリークラブの活動を通じてお知り合いをふやし、人間の幅を広げ、しっかりと勉強させて頂きたいと思っています。どうか皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



●スマイルボックス SAA 篁委員

👤大本君 (自主申告・大牧)

11月16日に二男夫婦に長女が生まれました。予定日より早く生まれたので、少し心配ですが、健やかに育ってくれることを願い出宝します。

👤鈴木君 (自主申告・金一封)

この度私は、11月14日土曜日に芸南カントリーで開催されました、紫友会でのベスグロ優勝と3RC合同ゴルフコンペにおきまして、準優勝となり大変嬉しく思っております。

金曜日、大阪出張で土曜日の朝4時半に起き、新大阪6時の始発で広島駅に7時半に着き、ゴルフ場に向かう強行スケジュールではありましたが、本当に参加して良かったです。久しぶりのベスグロを記念しまして出宝いたします。

👤鮫島君

本日、皆様のボックスに弊社のパンフレットを入れさせて頂きました。

30名様までの団体を対象にした忘年会特別プランのご案内と、武田鉄也さん率いる海援隊のディナーショーでございます。

一年の疲れを癒す締めくくりとして是非ご利用くださいませ。

👤 紫雀会

優勝 岡野君 ダブル

2位 木本君

3位 園尾君

👤 新会員と推薦者

本日入会の瀬崎さん、柳原さん、入会おめでとうございます。また立派な会員をご推薦頂きました金本さん、原さん、そして推薦同意者の川西さん、上田さん、誠にありがとうございます。新会員の瀬崎さん、柳原さんが、当クラブに馴染んでいただき、ご活躍されることを祈念しております。

■ 卓 話

「外科の今とこれから」



福田 康彦 君

今、日本の医療制度は超高齢化社会の現実化と財政の逼迫を背景として大きく変わつつある。外科治療の分野もその影響が避けられないと思われ、今の状況を踏まえて、外科治療のこれからの展望について私見を述べたい。

19世紀に幕を開けた近代外科治療は20世紀に花開き、麻酔技術と感染対策の援護の元で全ての臓器にメスを入れることを可能にした。それは科学の進歩の象徴と捉えられ、人々に大きな夢と希望、そして信頼を与えてきた。まさに“20世紀は外科の時代”であった。私が外科教育を受け、外科医療の現場に携わったのはその時代の円熟期であった。働き盛りの30代から40代は外科治療の到達点ともいえる臓器移植の研究と腎臓移植の臨床に没頭した。今思えば幸せな時期に外科医として過ごすことができたという感慨が深い。

そして21世紀に入った今、日本は先進国としての国民意識の熟成は外科治療へ一層の技術進歩を要求している。それは患者へ低侵襲と整容性の追求に現れ、小さな切開創から行う鏡視下手術の隆盛に象徴される。所謂ロボット手術による精緻な手術も始まっている。それに伴って外科医の手術手技は大きく変貌し、新しい技術習得が要求され

ている。また、医療事故への厳しい眼も外科医の意識の変化が求められている。新臨床研修医制度、専門医資格制度、医療事故調査機関などの国から様々な介入が始まり、医療界の中で閉鎖的に行われてきた様々な伝統的システムは今や崩壊の兆しが露わとなってきた。それは明治以来続いてきた医学部医局制度という教育制度の変化に見ることができる。

外科治療はあくまでも局所治療であり、全身的疾患においての効果は限られる。がん治療において国民も外科医も長年抱えてきた期待はこの現実の前に今その限界が明らかになった。早期がんであれば外科治療は見事に迅速に治癒させるが、一旦進行したがんには無力であることが認識されつつある。臓器移植は臓器不全の根本的治療として確立し、外科治療の金字塔として賞賛されるが、日本では臓器提供者の確保が諸外国に比して格段に少ないという現状に立ち往生している。そして高齢者への外科治療の困難さは外科医を苦しめる。このような厳しい外科医の環境変化が外科医の加速度的な減少をもたらしている。

今、医療政策は慢性期医療や介護へシフトしつつあり、命を救う消化器外科、心臓外科、脳外科、臓器移植などの高度な外科治療は医療の中心からはずれつつある。今後、外科医の減少と高度な外科技術への要求は病院の統廃合による効率化に向かわざるをえない時代になるだろう。しかし、外科領域の研究は新たな分野を創生するに違いない。それは、基礎研究や工学など他の領域と外科の融合という型で現れるのではないだろうか。その時再び外科の時代が還って来ることを老外科医は信じているのである。

● 卓話予告

日時	テ ー マ
12/17(木)	障害のある児童と広島市の取り組み 広島市社会福祉事業団広島市西部子ども領域センター センター長 小川 裕子 氏



例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 金本 善行
幹 事 梶本 政明

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail: hwrc@godorc.gr.jp

作 成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC

検索

